

Google I/O 2026 : Gemini 「会話」 から 「実行」 へー エージェント時代の幕開け

エージェント中心のGemini時代、基盤モデル、個人エージェント、マルチモーダル編集、インフラが統合。
市場はAI主導権奪還と高コスト・リスクの二面で評価。Googleのサービス群を一つの「エージェント・スタック」として統合。

エージェント時代の3大プロダクト

Gemini 3.5 Flash : 高速エージェント実行モデル



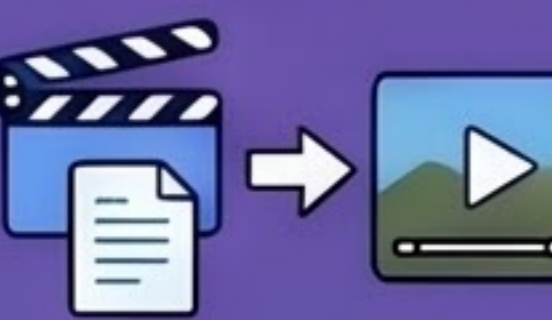
長期的なエージェントタスクやコーディング、マルチモーダル理解に特化した、Gemini 3.5シリーズの先鋒を切る高速モデルです。

Gemini Spark : 24時間稼働の個人AI



Workspace (Gmail, Docs等) と深く統合され、ユーザーがオフラインでもタスクを継続・実行するクラウドベースのエージェントです。

Gemini Omni : マルチモーダル生成・編集



テキスト、画像、音声、動画を総合し、対話形式で物種別に基いた高品質な動画生成や編集を可能にします。

会話 → 実行



技術評価とパフォーマンス



83.6% 76.2%

エージェント性能の飛躍

Terminal-Bench 2.1で76.2%、MCP Atlasで83.6%を記録し、個々のツール利用や開発タスクでの働きを示しています。



速度面での圧倒的優位

Appwriteの調査では、90点以上のスコアを拵コトップ層モデルの中で最速の稼働速度を記録しました。

主要ベンチマークスコア

ベンチマーク項目	スコア / 内容	意味すること
Terminal-Bench 2.1	76.2%	ターミナル操作・開発タスクの順度
MCP Atlas	83.6%	多段ツール連携・エージェント能力
CharXiv Reasoning	84.2%	国語・マルチモーダル推議能力
出力速度	278 tokens/s	同知能用のモデルで閉立つ速さ



運用コストの増大という懸念

多段連携によるトークン消費が増え、Gemini 3 Fixxh比で5.5倍、3.1 Pru比で79%高い運用コストになる可能性が宿藏されています。

評価とリスクのトレードオフ



Googleエコシステムの統合 vs プライバシー

GmailやDriveとの連携は利便性を高める一方、ユーザーデータへの広範なアクセスに対する懸念も生んでいます。



創作の民主化 vs 倫理的リスク

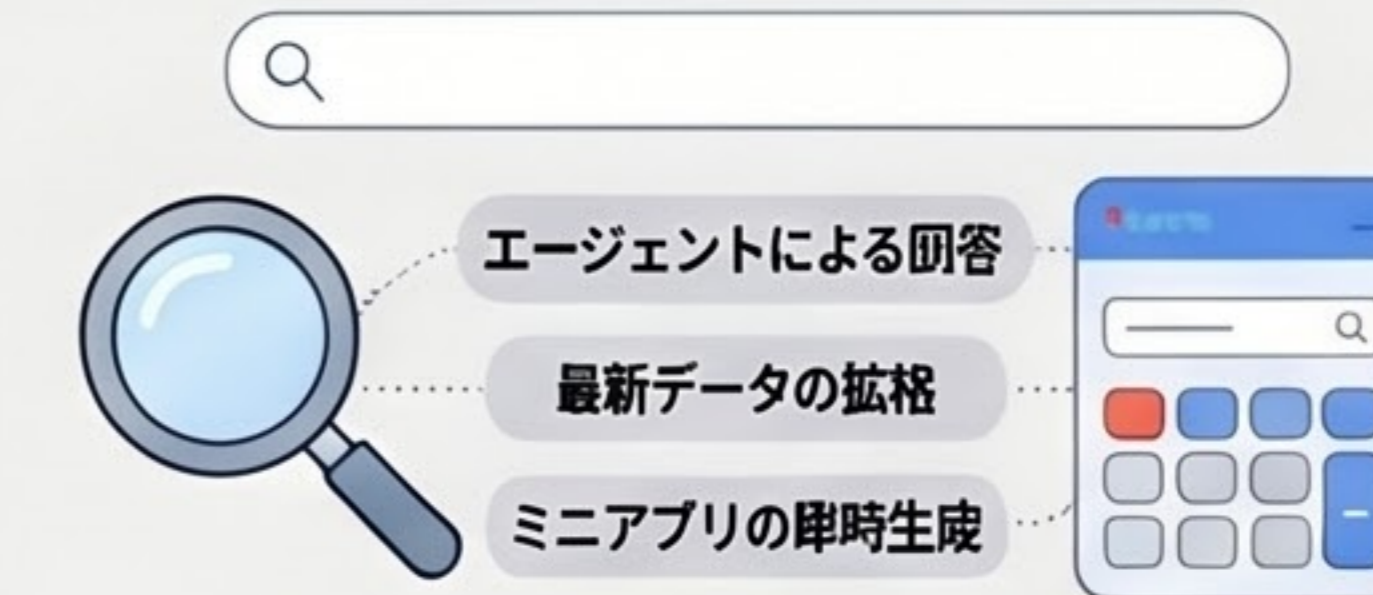
誰でも悪質な動画を作れる反面、AIアバターによる不閉毒ディープフェイクやなりすましのリスクが懸調されています。



「もはや追いつく側ではない」

Bank of Americaは、Googleが検索・エージェント・ハードウェアを統合し、再びAI関争の拵調に立ったと評価しています。

未来の検索体験 : AI Search



検索窓が「実行」の場合

検索結果はリンクのリストではなく、エージェントによる回答、最新データの検撰、ミニアプリの即時生渾へと変化します。

• 10億ユーザー

月間10億ユーザーの基盤

すでにAI Modelは10億ユーザーを語えており、Gemini 3.5 Flashがこの巨大なトラフィックの新しいデフォルトとなります。